

第 23 回米百俵賞受賞

(令和元年 6 月 15 日表彰)

モハメッド ヌルル エラヒ

美砂子 (見附市)



バングラデシュの農村に小学校を建設するとともに、学校建設のための募金では、中之島中央小学校が学校田の収穫米売上金を寄附し、テレビ電話で現地児童との交流を図るなど、相互の学びを行った。

■受賞時プロフィール

バングラデシュの農村地域の子どもたちは、貧困ゆえに教育を受ける機会に恵まれないという現実がある。エラヒ夫妻はそのような境遇にある子どもたちを支援したいと決意し、平成 23 年に小学校建設基金を設立した。

学校建設費用は約 600 万円。校舎をつくるだけでは維持運営に困難が予想されるため、学校が村民と畜産や魚の養殖を手掛け、教職員の給与等を生み出すなど、村の経済的自立を視野に入れ、村民が一丸となって学校を守り存続させる仕組みを構築している。

募金活動においては、長岡市立中之島中央小学校の児童が、学校田で収穫した米の売上金を寄附するなど、支援の輪が広がり、平成 29 年、小学校が開校した。

小学校の在籍数は約 190 名。貧しい家庭がほとんどのため授業料や教科書代は無料。子どもたちに各教科のほかに日本語を教えるとともに、放課後に読み書



▲授業を受ける子どもの様子

きのできない大人にも勉強を教えている。

平成30年には中学校併設が認可され、小中一貫校となる。国が実施した中学校への進級試験には全員が合格。将来を夢見る子どもたちからは、「医師になりたい」、「教師になりたい」という具体的な未来像が語られるようになっている。

また、募金活動を行った中之島中央小学校の児童と、現地の児童がスカイプでお互いに将来の夢を話して交流を行うなど、長岡とバングラデシュの子どもたちの相互の学びを実現している。

■受賞後の活動

米百俵賞受賞後も中之島中央小学校と現地の学校との交流は続いている。中之島中央小学校の児童が学校田で栽培した米の売上金をエラヒさんを通じてバングラデシュの小学校に寄附しているほか、オンラインで互いの学校や生活について紹介する交流も続けられている。



▲平成29年から続く、バングラデシュと中之島中央小学校のオンライン交流の様子